



■ ■ ■ ■ ■ Activities of The MITSUI Public Relations Committee

三井広報委員会 活動紹介



つながる気持ち。 つながる時間。

人が人を想う。人が明日を想う。

時代を前へ、先へ、次へと導く原動力は

この想いの中にこそ存在していると私たちは信じています。

三井広報委員会はさまざまな文化活動および広報活動を通じて

人と人とのコミュニケーションを深め、

未来につながる文化の懸け橋を築いていきます。

Index

概要	4
現在の主な活動	6
会員会社紹介	10
これまでのあゆみ	19
三井の歴史	28



行動理念

三井広報委員会は、三井グループ各社がまとまり、様々な文化活動および広報活動を通じて、国際交流や地域社会の活性化に貢献するとともに、社会の繁栄と福祉に寄与し、三井グループのより一層のイメージ向上を目指します。



三井広報委員会

行動指針

1. 国際文化交流の推進

三井広報委員会は、国際間の相互理解の促進を図るために、国内外において主催・協賛する各種イベントを通じて、優れた芸術・文化を広く紹介し、国際文化交流を進めます。

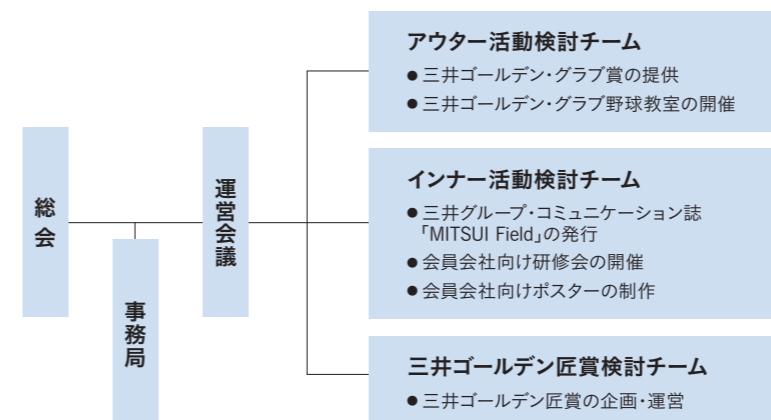
2. 地域文化活動の活性化

三井広報委員会は、日本国内において各地域の主体的参画による芸術・文化活動を後援し、地域社会の活性化に貢献します。

3. 広報活動の推進

三井広報委員会は、三井グループ各社の活動について国内外に広く理解と支援を得るため、多様なメディアを通じて、積極的な広報活動を展開します。

組織図



三井広報委員会

現在の主な活動



三井ヒューマンプロジェクトは、「人の三井」という三井グループらしさをベースに「人を大切にし、多様な個性と価値を尊重することで社会を豊かにする」ことを目的とした、「三井広報委員会会員会社」「三井グループ全体」「三井広報委員会」のそれぞれが行う社会貢献活動を世の中に発信するための総称です。



ロゴにこめられた想い

人のモチーフをロゴの一部として採り入れ、人を大切に考えるヒューマンプロジェクトの理念を象徴させました。手を上げたシルエットが、自由闊達で活力ある三井グループの風景と、人が伸びやかに育っていく様子を表現しています。

ミツイゴールデン・グラブ賞

プロ野球セ・パ両リーグの “守備のベストナイン”を表彰

三井ゴールデン・グラブ賞は1972年にダイヤモンドグラブ賞としてスタートし、1986年に現在の名称になりました。日本プロ野球セ・パ両リーグの第三者公式表彰として制定される本賞は、毎年卓越した守備によりチームに貢献した選手を、新聞社・通信社・テレビ局・ラジオ局のプロ野球担当記者(現場取材経験5年以上)による投票で選ぶ、権威ある賞のひとつです。その年守備で最も輝いたベストナインの選出に、毎年多くの期待が寄せられています。

選考対象となるプレイヤーの資格

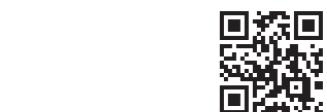
- 投手は規定投球回数以上投球していること、またはチーム試合数の1/3以上登板していること
- 捕手はチーム試合数の1/2以上捕手として出場していること
- 内野手はチーム試合数の1/2以上1ポジションの守備についていること
- 外野手はチーム試合数の1/2以上外野手として出場していること



三井ゴールデン・グラブ賞歴代受賞記録

セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
最多受賞回数 山本 浩二(広)⑩	福本 豊(急)⑫
駒田 徳広(横)⑩	
古田 敦也(ヤ)⑩	
宮本 健也(ヤ)⑩	
最多受賞外国人選手 口 ベース(イ)⑤	マルカーノ(急)④
最多連続受賞 山本 浩二(広)	福本 豊(急)
10年連続(1972~81年)	12年連続(1972~83年)
最年長受賞 宮本 健也(ヤ)	稻葉 篤紀(日)
2012年/41歳11ヶ月	2012年/40歳2ヶ月
最年少受賞 立浪 和義(中)	松坂 大輔(武)
1988年/19歳2ヶ月	1999年/19歳1ヶ月
満票受賞 堀内 恒夫(巨)1972年	大橋 穂(急)1972年
高田 繁(巨)1972年	有藤 通世(口)1974年
王 貞治(巨)1974年	福本 豊(急)1976~79年
山本 浩二(広)1975~79年	梨田 昌崇(近)1979年
飯田 哲也(ヤ)1992年	秋山 幸二(武)1990年

※丸数字は受賞回数 ※球団表記は最終受賞時の所属 ※第49回(2020年度)現在



ミツイゴールデン・ハンド賞

「未来につながるものづくり」を 讃える

伝統文化における革新性とは何でしょうか。三井広報委員会は、日本の伝統を継承しながら未来につながるものづくりに真摯に取り組み、さらに発展させている伝統工芸の担い手の活動にそれを見出しました。

私たちはこの賞を通して、日本の伝統を次世代につなぐ取り組みを応援していきます。

賞の種類

ミツイゴールデン・ハンド賞 5名以内または5団体以内審査員による審査で選出。

モストボビュラー賞

1名または1団体一般の方に伝統工芸を身近に感じていただくことを目的とし、インターネットによる一般の方からの投票により、三井ゴールデン・ハンド賞受賞者の中から選出。

第3回 ミツイゴールデン・ハンド賞受賞者



秋山 真和氏／
宮崎手綱(綾の手紹)
【グランプリ】
田山 貴穂氏／
タヤマスタンオ(株)*
【モストボビュラー賞】
一瀬 美教氏
((株)大直)／
市川和紙
堤 卓也氏
((株)堤浅吉漆店*)／
漆精製・販売
水落 良市氏／
越後三条打刃物

*団体として受賞



左から:
岩清水 晃氏((株)岩鋳代表*)／南部鉄器 【モストボビュラー賞】
杉原 吉直氏／越前和紙
立川 裕氏／伝統技術ディレクター
能作 克治氏((株)能作代表*)／高岡銅器 【グランプリ】
福島 武山氏／九谷焼
※団体として受賞

左から:
山本 篤氏／九谷焼
中川 政七氏／経営者
桐本 泰一氏／輪島塗 【グランプリ】
玉川 基行氏((株)玉川堂代表*)／蒸鎬起銅器 【モストボビュラー賞】
齋藤 宏之氏／大洲和紙
※団体として受賞



三井ゴールデン・グラブ野球教室

三井ゴールデン・グラブ賞 受賞実績のある講師陣による “指導者”のための野球教室

三井ゴールデン・グラブ賞を受賞した元プロ野球選手を講師に招き、“守備”を中心とした野球の基本技術とその指導方法について分かりやすく教える「指導者のための野球教室」を、年2回全国各地で開催しています。

2010年よりスタートした本教室では、子どもたちの身体に負担をかけない、ケガをしないための正しい練習および指導方法について、講義と実技指導を行います。本教室を通じて指導者の皆さんに正しい野球知識を習得し、日々の指導に役立てていただくことで、ひたむきにプレーする子どもたちの夢を応援します。

<三井グループ関連施設>



三井記念美術館

三井家旧蔵の優れた美術工芸品を所蔵・展示

三井記念美術館は、三井家が江戸時代から収集した美術工芸品約4,000点、切手類約13万点を所蔵しています。所蔵品は茶道具を中心に、絵画、書跡、刀剣、能面、能装束、調度品など多岐にわたり、国宝6点、重要文化財75点、重要美術品4点を含みます。館蔵品の展覧会だけでなく、様々なテーマによる特別展を企画・開催しています(常設展示なし)。

東京都中央区日本橋室町2-1-1 三井本館7階
TEL 050-5541-8600(ハローダイヤル)

<http://www.mitsui-museum.jp>

リニューアル工事のため、2021年8月23日(月)より2022年4月28日(木)(予定)まで休館



三井記念病院

社会福祉の精神で慈善病院から発展

三井記念病院は、1909年、三井家の寄付により「三井慈善病院」として開院しました。生活困窮者を対象に無料で治療を行うという開院趣旨を受け継ぎ、「社会福祉の精神」のもと、100年以上にわたり高度な医療を絶えず提供しています。

東京都千代田区神田和泉町1

TEL 03-3862-9111

<https://www.mitsuhosp.or.jp>



これまで広がり続けてきた三井グループ各社の繋がりをさらに強め、相互理解を深めていくために様々な取り組みを行っています。グループコミュニケーション誌やポスターなどの発行・制作、研修会の開催などを通じて、三井グループの人と人を繋げていきます。

MITSUI Field



三井グループのコミュニケーション誌

三井グループ各社が活躍する分野(Field)と、そこで働く人々を幅広く紹介する三井グループのコミュニケーション誌を年4回発行しています。各社社員が相互理解を深め、三井ブランドの向上をグループ内から促進する働きかけとして制作。各社の最新事業から三井の歴史やゆかりの地、社員のオン・オフタイムまで、毎号多彩な内容を掲載しています。

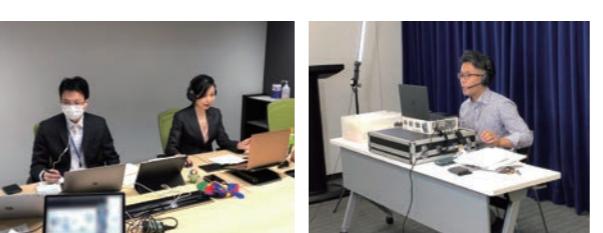
会員会社向けポスター



グループ意識の醸成・向上のために

会員各社におけるグループ意識の醸成と向上を目的に、毎年インナー向けのポスターを制作しています。その年ごとにテーマを設け、会員各社の若手社員にモデルとして登場していただきます。

会員会社向け研修会



会員会社の相互理解と、 広報部門のレベルアップを目指して

会員各社の相互理解の促進と広報部門のレベルアップを目指して各種研修会を開催しています。ディスカッションやグループワーク、施設見学会などを通じ、様々な発見や刺激を得る“学びの場”を提供しています。

DVD「三井のこころ」



(DVD 33分版・15分版)

自由闊達な三井の気風を紹介する、 社員向けツール

340余年の歴史を誇る、三井の事業精神や先見性・創造性を改めて知っていただくため、グループ社員向けに制作した映像ツールです。「三井家の由来」「三井の事業精神」「三井家から三井グループへ」「人の三井」「三井グループのこれまで、そして未来」の内容で構成しています。

※ ダイジェスト版を三井広報委員会HPでご覧いただけます。



三井広報委員会

会員会社紹介



上空から日本橋周辺の眺め。中央に見えるのは、日本橋室町三井タワー。



三機工業

SANKI ENGINEERING CO., LTD.

<https://www.sanki.co.jp>

〒104-8506
東京都中央区明石町8-1
聖路加タワー
TEL 03-6367-7041



三機工業は、1925年の創業以来、建物に様々な設備を提供することで、「建物に生命を与える」仕事をしてきました。長年にわたり培ってきた技術を活かし、快適なビル空間・産業空間を支える空調・給排水・電気・情報通信などの建築設備、機能的な搬送を実現する機械システム、水処理、廃棄物処理設備を提供する環境システム、金融機関の統合・移転をトータルサポートするファシリティシステムなど幅広い事業領域をもつ「総合エンジニアリング」会社です。また、ビル設備(BA)と情報通信(IT)を統合し、ビルの省エネルギーを推進するスマートビルソリューション、厨房設備・食品工場などの食空間のトータルシステムの提案など、独自のエンジニアリングも展開しています。当社はこうした様々な技術を有効に組み合わせてお客様にご提案し、持続可能な社会づくりに貢献してまいります。



新日本空調

SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES Co., LTD.

<https://www.snk.co.jp>

〒103-0007
東京都中央区日本橋浜町2-31-1
浜町センタービル
TEL 03-3639-2700



新日本空調は、1930年の創業以来「技術のキヤリア」との呼び声も高く、世界を席巻した高い技術とパイオニア精神は現在まで脈々と受け継がれています。日本における空調のパイオニアとして、多くの建物や施設で、付加価値の高い設備の施工により重要な役割を果たし、空調を核とした総合エンジニアリング企業として、さまざまな社会課題の解決に向けた事業を行っています。2019年10月に新たに「企業理念『使命』と『価値観』」の制定と共に、「ロゴマーク」も刷新し、将来起こりうる変化やその先の見通しに対して、柔軟且つ機敏に対応できる企業グループであるために、2030年を節目とした当社グループの10年ビジョン【SNK Vision 2030】を定めました。2020年代も社会やお客様から信頼され、健全に発展を続ける『100年企業』へ向けた取組みを推進し、更なる企業価値向上を目指してまいります。



三井住友建設

Sumitomo Mitsui Construction Co., Ltd.

<https://www.smcon.co.jp>

〒104-0051
東京都中央区佃2-1-6
TEL 03-4582-3000



三井住友建設は、三井グループの総合建設会社として、土木・建築・海外を3本柱に事業展開しています。土木事業では、業界トップクラスの技術と施工実績を誇るPC（プレストレスト・コンクリート）橋梁を中心に、山岳トンネル、シールド、ダムなどの社会基盤整備に、先進の技術で取り組み続けます。またリニューアル関連の技術にも定評があります。建築事業では、長年培ってきた超高層集合住宅や実績豊かな免震技術を中心に、事務所ビル、商業施設、医療福祉施設や工場、倉庫など、お客様のニーズに沿ったさまざまな建物を提供しています。海外事業では、東南アジア、インドを中心に、日系企業の進出支援やODA事業を通じた資本整備に取り組み、国際社会の発展に寄与します。これらの事業を通じて「くらしをささえるものづくり」に取り組み、社会の発展に貢献してまいります。



サッポロホールディングス

Sapporo Holdings Ltd.

<http://www.sapporoholdings.jp>

〒150-8522
東京都渋谷区恵比寿4-20-1
恵比寿ガーデンプレイス内
TEL 0570-200-533



サッポログループは「潤いを創造し 豊かさに貢献する」を経営理念に掲げ、新たな価値創造による持続的な企業価値向上に取り組んでいます。創業150周年となる2026年をゴールとする長期経営ビジョン「SPEED150」を策定し、特長ある商品やサービスをグローバルに展開しながら『酒』『食』『飲』で個性かがやくブランドカンパニーを目指しています。グループの成長の源泉は、140を超える歴史の中で培われた「ブランド資産」と定め、お客様との対話から得られた気づきやヒントを糧に、イノベーションや品質の向上を追求しています。酒類事業、食品・飲料事業、また、グループゆかりの地である「札幌」「恵比寿」「銀座」でのまちづくりに取り組む不動産事業とともに、ブランドを磨き、お客様接点を拡大しながら、力強い成長と誠実なグループであり続けることによる企業発展、さらには持続可能な社会づくりに貢献してまいります。

'TORAY'
Innovation by Chemistry

東レ

Toray Industries, Inc.

<https://www.toray.co.jp>

〒103-8666
東京都中央区日本橋室町2-1-1
日本橋三井タワー
TEL 03-3245-5111



東レは、1926年に創業して以来、基礎素材メーカーとして、繊維、樹脂、ケミカル、フィルム、さらには炭素繊維複合材料、電子情報材料、医薬・医療、水処理・環境といった様々な分野において多くの先端材料、高付加価値製品を創出していました。現在、日本を含む世界の29カ国・地域で事業を展開しており、ものづくりの中核である日本国内で創出した製品の用途開発を世界各地で行うことにより、グローバルな規模での持続的な成長サイクルを実現しております。今後も東レグループは、「安全・防災・環境保全」並びに「企業倫理・法令遵守」を経営の最優先課題に位置づけるとともに、「わたしたちは新しい価値の創造を通じて社会に貢献します」という企業理念のもと、社会に役立つ製品・サービスを提供することで、ステークホルダーの皆様の期待に応えてまいります。

領域をこえ 未来へ
OJI

王子ホールディングス

Oji Holdings Corporation

<https://www.ojiholdings.co.jp>

〒104-0061
東京都中央区銀座4-7-5
TEL 03-3563-1111



王子ホールディングスは1873年の創業以来、140年以上にわたり事業領域を拡大し、成長を続けてきました。「革新的価値の創造」、「未来と世界への貢献」、「環境・社会との共生」を経営理念に掲げ、2019年度から2021年度までの中期経営計画では、「国内事業の収益力アップ」、「海外事業の拡充」、「イノベーションの推進」、「持続可能な社会への貢献」をグループの基本方針に据えています。国内においては生産体制再構築、東南アジアを中心に段ボール事業や紙おむつ事業を拡大しています。また、木質由来の新素材開発に力を入れ、セルロースナノファイバーの幅広い用途開発をはじめ、セルロース由来のバイオマスプラスチック、ヘミセルロース由来の医薬品開発等を進めています。今後も、当社の事業そのものが持続可能な社会に貢献できるよう取り組んでまいります。

Denka

デンカ

Denka Co., Ltd.

<https://www.denka.co.jp>

〒103-8338
東京都中央区日本橋室町2-1-1
日本橋三井タワー
TEL 03-5290-5055



デンカイノベーションセンター

デンカは1915年の創立以来、カーバイドを製造する技術を活かし、様々な製品を生み出してきました。現在では有機、無機の各種素材から電子材料、医薬に至る幅広い分野で事業を展開しています。2018年4月にスタートした経営計画「Denka Value-Up」では、企業の成長持続に必要不可欠な「安全最優先」「環境への配慮」「人財の育成・活用」「社会貢献」を基本精神に掲げ、新たな成長戦略により、「スペシャリティーの融合体“Specialty-Fusion Company”」となり、「持続的成長」かつ「健全な成長」の実現を目指します。私達は企業理念「The Denka Value」で掲げた、Denkaの使命「化学の未知なる可能性に挑戦し、新たな価値を創造(つくる)ことで、社会発展に貢献する企業となる」を胸に、社会から信頼される企業グループとして、未来に向け何をすべきかを考え、行動してまいります。

Mitsui Chemicals

三井化学

Mitsui Chemicals, Inc.

<https://jp.mitsuichemicals.com>

〒105-7122
東京都港区東新橋1-5-2
汐留シティセンター
TEL 03-6253-2100



三井化学の起源は1912年に遡ります。当時の社会課題であった食糧増産のため、日本で初めて石炭副生ガスから化学肥料原料を生産し、農業の生産性向上に大きく貢献しました。その後、石炭化学からガス化学へとテクノロジーを進化させ、1958年には日本初の石油化学コンビナートを築き、日本の産業界を牽引してきました。今では数多くの世界トップ製品を有しております、世界30の国と地域に150社以上を抱えるグローバル企業へと成長しています。その事業ポートフォリオは、環境に優しい次世代自動車材料、健康・安心な長寿社会を実現するヘルスケア、食品の安心安全を守るパッケージ、食糧増産に貢献する農業化学品、電子材料、環境エネルギー分野と多岐に亘っています。三井化学は、今後も卓越したソリューションと「新たな顧客価値の創造」を通じ社会課題の解決に貢献してまいります。

JSW

日本製鋼所

THE JAPAN STEEL WORKS, LTD.

<https://www.jsw.co.jp>

〒141-0032
東京都品川区大崎1-11-1
ゲートシティ大崎ウエストタワー
TEL 03-5745-2001



広島製作所

日本製鋼所は100余年にわたり、国内外のお客様のニーズに最先端の技術でお応えし続けてきました。現在はプラスチックの基礎材料ペレットの製造から最終製品の成形に至るまでの各種プラスチック加工機械、レーザー応用製品を中心とした産業機械事業をグローバルに展開しております。また、第5世代移動通信システム「5G」の本格化により、ニーズの増加が期待される結晶加工事業の拡大にも注力してまいります。

当社はこれからも、創業以来追求してきた「ものづくり」と「価値づくり」で持続可能な成長企業を目指し、買い手よし(顧客満足)、売り手よし(従業員満足)、世間よし(社会的責任遂行)、株主よし(株主満足)の「四方よし」の精神で、変化する社会とお客様のご要望に応えられるよう、社会の発展に貢献してまいります。



三井金属

MITSUI MINING & SMELTING CO., LTD.

<https://www.mitsui-kinzoku.com>

〒141-8584
東京都品川区大崎1-11-1
ゲートシティ大崎ウエストタワー
TEL 03-5437-8000



奈良時代養老年間の昔から1200年以上の歴史と東洋一の規模を誇った神岡鉱山。1874年、三井組がこの鉱山の経営を開始したことが当社事業の起源です。以来、国内外で鉱山開発・製錬事業を展開、さらには様々な廃棄物から有価金属を回収するリサイクル製錬を展開・強化し、産業の基礎素材である亜鉛、銅、貴金属などを安定的に供給し続けています。また、「マテリアルの知恵を活かす」というスローガンのもと、幅広く事業展開しており、極薄銅箔や自動車用ドアロックなど、世界トップクラスのシェアを占める製品を多く有しています。更に、二輪・四輪車向け排ガス浄化用触媒など、持続可能な社会に貢献できる事業を手掛け、次世代電池(全固体電池)材料の開発にも取り組んでいます。これからも三井金属は、価値ある商品によって社会に貢献していきます。



東洋エンジニアリング

Toyo Engineering Corporation

<https://www.toyo-eng.com>
〒275-0024
千葉県習志野市茜浜2-8-1
TEL 047-451-1111



東洋エンジニアリングは、さまざまな国・地域でエネルギー開発案件や素材を供給するプラント建設プロジェクトを手がけてきました。海外のグループ企業とグローバルネットワーク体制を構築し、石油や天然ガス利用に向けた産業施設や製造設備、電力供給や水資源活用、交通システムなどインフラストラクチャーの設計・調達・建設を行っています。関連する技術提供や、商業化支援、運転支援、コンサルティングにいたるまで、お客様のビジネスシステムやバリューチェーンを最適化し、新しい企業価値を創出するための問題解決の提案と実現手段を提供してまいります。当社グループは、その使命である「Engineering for Sustainable Growth of the Global Community」を果たすために、技術を統合し全体システムの最適化を実現するエンジニアリングの遂行を通じて、社会に貢献することを目指しています。



三井E&Sホールディングス

Mitsui E&S Holdings Co., Ltd.

<https://www.mes.co.jp>
〒104-8439
東京都中央区築地5-6-4
TEL 03-3544-3147



1917年(大正6年)、旧三井物産造船部として誕生した三井造船は、創業から101年目を迎えた2018年4月、持株会社体制への移行とともに商号を「三井E&Sホールディングス」に変更。「三井E&Sグループ」として新たな一步を踏み出しました。「E&S」は、三井造船のルーツであるEngineering & Shipbuildingを由来としていますが、それにとどまらずEnvironment・Energy(環境・エネルギー)、Social Infrastructure(社会・産業インフラ)、Solution(課題解決)など、幅広い事業領域で多彩なソリューションを開拓していく企業姿勢を込めています。物流の要となる船舶から船舶の動力源であるディーゼルエンジン、産業機械、コンテナクレーン・港湾システム、海洋資源開発まで。わたしたちは、価値ある製品・サービスを提供するエンジニアリングチームとして、次世代の夢を形にしていきます。



商船三井

Mitsui O.S.K. Lines, Ltd.

<https://www.mol.co.jp>
〒105-8688
東京都港区虎ノ門2-1-1



商船三井は、鉄鉱石、石炭、木材チップなどを運ぶばら積み船、原油を運ぶタンカー、液化天然ガスを運ぶLNG船、自動車船、さまざまな製品を運ぶコンテナ船などによる海上輸送事業、洋上の石油・天然ガス開発等に携わる海洋事業、風エネルギーを用いた風力発電やその周辺事業に加え、海と陸を結ぶターミナル・ロジスティクス事業など、多彩な分野で時代の要請に応えるグローバル企業グループです。海運業を中心に様々な社会インフラ事業を開拓し、環境保全を始めとした変化する社会のニーズに技術とサービスの進化で挑んでいます。世界最大級の船隊と、130年余の歴史、経験、技術をもって展開する活動に、国境はありません。私たちは、強くしなやかな企業グループを目指し、青い海から人々の毎日を支え、豊かな未来をひらく、全てのステークホルダーに新たな価値を届けてまいります。



三井物産

MITSUI & CO., LTD.

<https://www.mitsui.com>
〒100-8631
東京都千代田区大手町1-2-1
TEL 03-3285-1111



三井物産は、社会経済環境そして人々の価値観の劇的な変化の中にもあって、常に多岐にわたる社会課題やお客様・パートナーの皆さまのニーズに真摯に向き合い、「トレーディング」と「事業経営・事業開発」の両輪での成長を軸とするビジネスを取り組んでいます。それぞれの現場で蓄積された知見をもとに、マーケティング、ロジスティクス、ファイナンス、リスクマネジメント、マネジメント、デジタルトランスフォーメーションといったさまざまな機能とグローバルなネットワークとを掛け合わせ、新たな価値を創出し、日本を含むグローバルなビジネス・コミュニティーの責任あるメンバーとして、ステークホルダーの皆さまと共に、環境と調和した持続可能な未来づくりに貢献し続けます。



三越伊勢丹ホールディングス

Isetan Mitsukoshi Holdings Ltd.

<https://www.imhds.co.jp/>
〒160-0023
東京都新宿区西新宿3-2-5
三越伊勢丹西新宿ビル
TEL 03-6730-5003



三越伊勢丹グループは、日本の誇り、世界への発信力をもち、高感度上質消費において最も支持され、お客様の暮らしを豊かにする“特別な”百貨店を中心とした小売グループを目指します。私たちは、いつの時代もお客様の目標を起点に「世界初」、「日本初」、「業界初」の取り組みをはじめとしたフロンティアスピリットを携え、創業以来現在に至るまで「暖簾への誇り」を胸に「商い」の本質を追い求めています。先人から受け継いだ「感性と科学」を掛け合わせ、キュレーションと比較購買のできる“非”日常の高感度な空間、そして細部に魂を込めた丁寧かつ繊細で質の高いおもてなしで、世界中の人々の「好き」をつなげてまいります。高感度上質消費を拡大・席捲し、最高の顧客体験を提供してまいります。

三井住友海上

Mitsui Sumitomo Insurance Company, Limited

<https://www.ms-ins.com>〒101-8011
東京都千代田区神田駿河台3-9
TEL 03-3259-3111

三井住友海上は2001年10月に、三井海上と住友海上の合併により誕生しました。

2010年4月には、三井住友海上グループ、あいおい損保、ニッセイ同和損保が経営統合し、「MS&ADインシュアランス グループ」が発足しました。

三井住友海上は、グループの中核事業会社として、「グローバルな保険・金融サービス事業を通じて、安心と安全を提供し、活力ある社会の発展と地球の健やかな未来を支える」ことを経営理念に、その実現に向けて取り組んでいます。

今後も、三井住友海上は、社会環境の変化に伴う新しいリスクや多様化するお客様ニーズに迅速かつ柔軟に対応した商品・サービスを提供していきます。



三井住友銀行

Sumitomo Mitsui Banking Corporation

<https://www.smbc.co.jp>〒100-0005
東京都千代田区丸の内1-1-2
TEL 03-3282-1111

三井住友ファイナンス&リース

Sumitomo Mitsui Finance and Leasing Company, Limited

<https://www.smfl.co.jp>〒100-8287
東京都千代田区丸の内1-3-2
TEL 03-5219-6400

JA三井リース

JA MITSUI LEASING, LTD.

<https://www.jamitsuilease.co.jp>〒104-0061
東京都中央区銀座8-13-1
銀座三井ビルディング
TEL 03-6775-3000

大樹生命

TAIJU LIFE INSURANCE COMPANY LIMITED

<https://www.taiju-life.co.jp/>〒135-8222
東京都江東区青海1-1-20
TEL 03-6831-8000

三井住友トラスト・ホールディングス

Sumitomo Mitsui Trust Holdings, Inc

<https://www.smth.jp>〒100-8233
東京都千代田区丸の内1-4-1
TEL 03-6256-6000

三井住友海上は2001年10月に、三井海上と住友海上の合併により誕生しました。

2010年4月には、三井住友海上グループ、あいおい損保、ニッセイ同和損保が経営統合し、「MS&ADインシュアランス グループ」が発足しました。

三井住友海上は、グループの中核事業会社として、「グローバルな保険・金融サービス事業を通じて、安心と安全を提供し、活力ある社会の発展と地球の健やかな未来を支える」ことを経営理念に、その実現に向けて取り組んでいます。

今後も、三井住友海上は、社会環境の変化に伴う新しいリスクや多様化するお客様ニーズに迅速かつ柔軟に対応した商品・サービスを提供していきます。

三井住友銀行(SMBC)は、2001年4月にさくら銀行と住友銀行が合併して発足しました。2002年12月、株式移転により持株会社である三井住友フィナンシャルグループ(SMFG)を設立し、その子会社となりました。2003年3月には、わかしお銀行と合併しています。三井住友銀行は、国内有数の営業基盤、戦略実行のスピード、さらには有力グループ会社群による金融サービス提供力に強みを持っています。三井住友フィナンシャルグループの下、他の傘下グループ企業と一体となって、お客様に質の高い複合金融サービスを提供していきます。

三井住友ファイナンス & リース(SMFL)は、国内トップクラスの総合リース会社です。これまでに培った専門性やグループの総合力を駆使して、お客様の設備投資や販売活動に役立つさまざまな金融サービスを提供しています。また、成長が続くグローバル市場では、お客様の海外展開をサポートするとともに、世界屈指の航空機リース事業をはじめとするトランスポーテーション分野に注力しています。社会の変化を捉えた高度なサービスの開発や事業領域のさらなる拡大を図ってまいります。また、環境エネルギー、デジタル、地域社会等に関する取り組みを加速させ、社会の持続的発展に貢献していくことで、次世代に選ばれる企業を目指します。

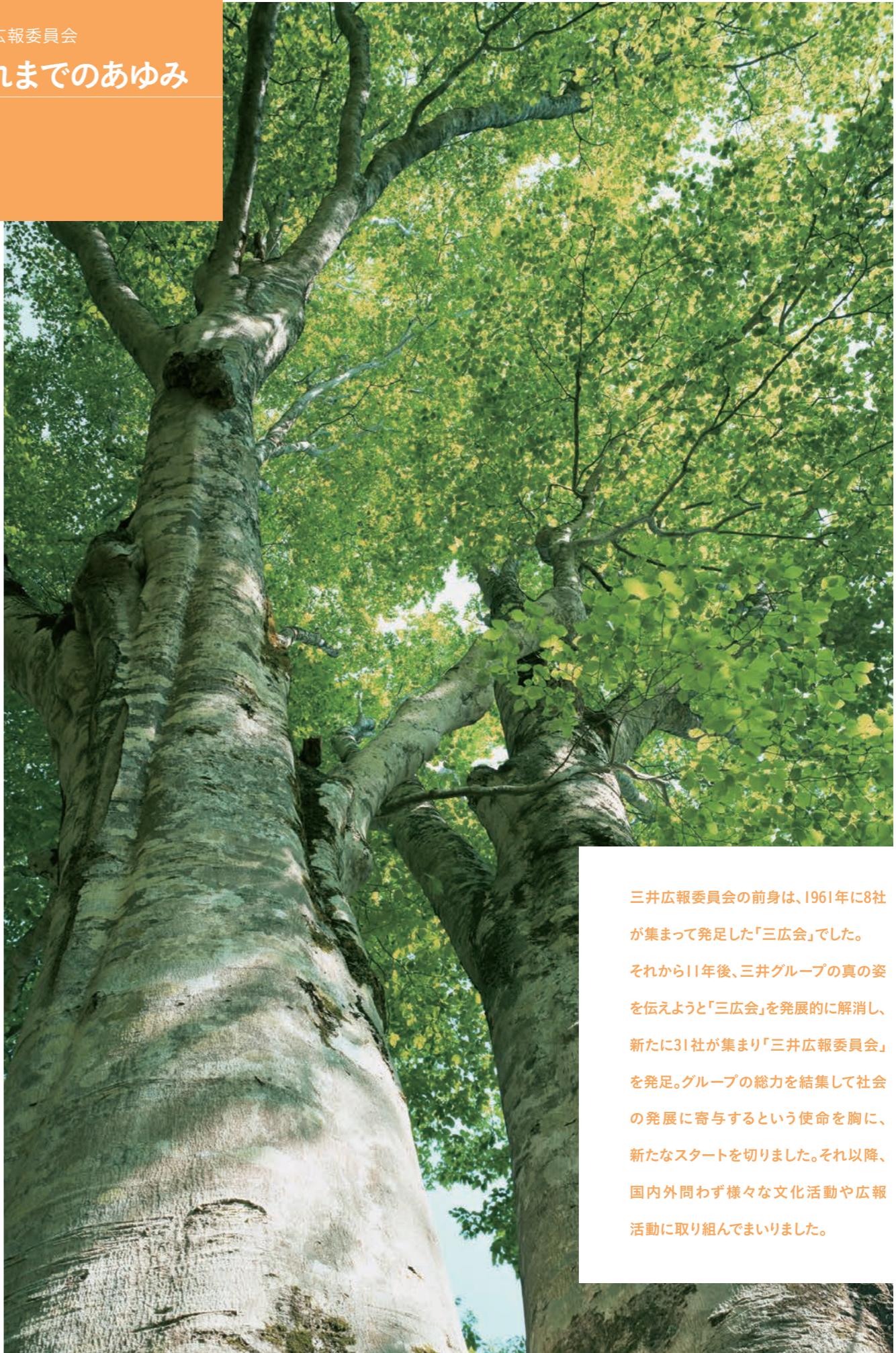
JA三井リースは、三井グループ各社とJAグループの出資により設立された総合リース会社です。農林水産分野における独自展開や製造設備、輸送機器、不動産などのアセットビジネスにおける専門性・オリジナリティを強みとし、社内外のネットワークを「つなぐ、つなげる」ことにより、金融の枠組みを超えたソリューションを国内外のお客様に提供しております。デジタルトランスフォーメーションや新しい生活様式の進展など変化の激しい時代において、企業が直面する課題も多様化・複雑化しておりますが、JA三井リースは、経営理念「Real Challenge, Real Change」に掲げる「より良い社会と未来」の実現のため、お客様のビジネスへの思いに寄り添い、ともに課題解決に向けて挑戦を続けてまいります。

1927年に「三井生命保険株式会社」として創業した当社は、2016年4月に日本生命保険相互会社との経営統合による新体制を発足し、2019年4月に「大樹生命保険株式会社」に社名を変更しました。社名の“大樹”には、「しっかりとお客さまを守り、よりそいく」という生命保険会社として大切にしている想いを重ね合わせ、“大樹”的に「しっかりと大地に根を張り、晴れの日も雨の日もしっかりとお客さまを守り、多くの人が集まっていく保険会社を目指そう」という想いを込めました。これからも当社は、お客様の「BESTパートナー」として、様々なニーズに応える保険商品の提供やサービスの向上に取り組むとともに、生命保険会社としての社会的使命を全うし、全てのステークホルダーの方々にご安心を提供できる生命保険会社となることを目指してまいります。

2011年4月、中央三井トラスト・ホールディングスと住友信託銀行が経営統合し、持株会社「三井住友トラスト・ホールディングス株式会社」は発足しました。また、2012年4月、傘下の信託銀行3社の合併により、新たに「三井住友信託銀行」が誕生しました。三井住友トラスト・グループでは、グループの存在意義(パーカス)「信託の力で、新たな価値を創造し、お客様や社会の豊かな未来を開拓させる」を社員一人ひとりが胸に抱き、ステークホルダーの皆様の期待に応え、持続可能な社会の実現と、当グループの持続的かつ安定的な成長に向けて、全力を尽くしてまいります。

三井広報委員会

これまでのあゆみ



三井不動産

Mitsui Fudosan Co., Ltd.

<https://www.mitsufudosan.co.jp>

〒103-0022
東京都中央区日本橋室町2-1-1
TEL 03-3246-3131



三井不動産は、旧三井合名会社所有の不動産経営を主たる目的として、1941年に設立されました。その後、時代の変化に対応し、オフィスビル、商業施設、住宅、ホテル・リゾート、物流施設、資産活用コンサルティングなどの不動産事業を中心に、国内外の幅広い分野でグループ事業を展開しています。現在、グループ長期経営方針「VISION 2025」に基づき、不動産業そのもののイノベーションとさらなるグローバリゼーションを推進しています。

当社グループは、これまでにも「&」マークに象徴される「共生・共存」「多様な価値観の連繋」「持続可能な社会の実現」の理念のもと、ESG課題に対する様々な取り組みを行ってまいりました。

今後もグループ社員一丸となり、街づくりを通して持続可能な社会の実現に貢献してまいります。



三井倉庫ホールディングス

MITSUI-SOKO HOLDINGS Co., Ltd.

<https://www.mitsui-soko.com>

〒105-0003
東京都港区西新橋3-20-1
TEL 03-6400-8000



エームサービス

AIM SERVICES CO., LTD.

<https://www.aimservices.co.jp>

〒107-0052
東京都港区赤坂2-23-1
アークヒルズフロントタワー
TEL 03-6234-7500



三井倉庫グループは、1909年の創業以来、多様化する社会やお客様のニーズに100年以上にわたりお応えし続けております。日々の快適な生活を支えているさまざまな製品や情報資産などを大切にお預かりするという倉庫業で培ったDNAをもとに進化を続け、現在では製造工程における構内物流から、陸・海・空の輸送、保管から配達など、物流の川上から川下まで全てのニーズに対応しうる物流機能を総合的に揃えるに至りました。

私たちは常にお客様の視点に立ち、お客様が考える「価値」を共有し、お客様の課題に真摯に向き合い、共により良い社会の実現を目指す総合物流企業であり続けたいと考えております。

お客様から信頼され、最初に相談していただけの「ファーストコールカンパニー」となるべく、三井倉庫グループは一丸となってこれからも皆様と共に歩んでまいります。

三井広報委員会の前身は、1961年に8社が集まって発足した「三広会」でした。それから11年後、三井グループの真の姿を伝えようと「三広会」を発展的に解消し、新たに31社が集まり「三井広報委員会」を発足。グループの総力を結集して社会の発展に寄与するという使命を胸に、新たなスタートを切りました。それ以降、国内外問わず様々な文化活動や広報活動に取り組んでまいりました。

1961

[昭和36年]

- ・三井広報委員会の前身である「三広会」発足。
- ・三井物産が提供していたテレビ番組「兼高かおる世界の旅」が三広会の提供となる。女性ジャーナリストの兼高さんが旅をしながら世界各地を紹介するもの。63年から10年間、番組内で「三井クイズ」を行い、当選者39名を香港やパリに招待。人気教養番組として注目を集めます。



「三広会」の発足を伝える1961年1月1日付けの三友新聞



テレビ番組「兼高かおる世界の旅」を提供

1969

[昭和44年]

- ・ロサンゼルス上空に日本語の文字「三井グループ」を描き出したコマーシャルが、「日本民間放送連盟年間表彰・テレビコマーシャルの部」で金賞受賞。

1970

[昭和45年]

- ・三井物産が三井グループのPR誌「三井グラフ」を創刊。創刊号の特集は、同年開催された「日本万国博覧会」。



「三井グラフ」創刊号

1972

[昭和47年]

- ・三広会を発展的に解消し、「三井広報委員会」発足。
- ・「兼高かおる世界の旅」の提供も三井広報委員会となる。三井グループといえど「兼高かおる世界の旅」といわれるほど人々に親しまれ、三井グループのイメージアップに貢献した。
- ・三井物産スポーツ用品販売がプロ野球セ・パ両リーグに申し入れていた「ダイヤモンドグラブ賞」の制定が承認される。現在の「三井ゴールデン・グラブ賞」である。



「三井広報委員会」の発足を伝える1972年3月30日付けの三友新聞

1977

[昭和52年]

- ・「兼高かおる世界の旅」の提供を終了し、新たにクイズ番組「世界をあなたに」を提供。

1978

[昭和53年]

- ・「世界をあなたに」に替わり、世界各国の経済、文化、芸術などを紹介しながら、日本との関係をテーマにした教養番組「世界にかける橋」の提供開始。1982年まで続ける。80年からは、番組中に鳥飼秋美子さんの「ワンポイント英語コーナー」を設けて好評を博す。

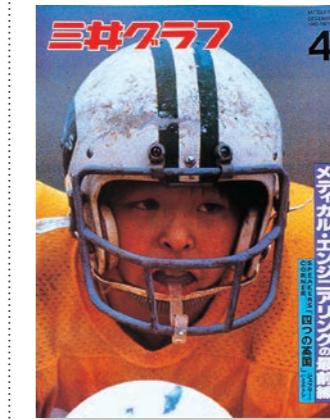


テレビ番組「世界にかける橋」に登場した鳥飼秋美子さんの「ワンポイント英語コーナー」

1980

[昭和55年]

- ・三井物産より「三井グラフ」の企画・編集・発行を引き継ぐ(42号より)。



三井広報委員会発行となり最初の「三井グラフ」42号

1981

[昭和56年]

- ・360度のパノラマ展望が楽しめる東京・霞が関ビルの36階に、三井グループの活動をパネルや写真で紹介する「三井スカイプロムナード」をオープン。連日500人近い入場者でにぎわう(1990年終了)。



霞が関ビル36階にオープンした「三井スカイプロムナード」

1960年代

1970年代

1980年代

三井グループの広報活動を共同で行う「三広会」がスタート

1960年12月、東京都中央区日本橋室町にある三井本館に、三井銀行(現・三井住友銀行)、三井物産、三井化学工業(現・三井化学)、三井金属、三井石油化成工業(現・三井化学)、三井精機工業、三井造船(現・三井E&Sホールディングス)、三井船舶(現・商船三井)の8社が集まり、三井グループとして国内外向けに広告宣伝を共同で行うことを目的に、1961年1月1日を期して現在の「三井広報委員会」の前身となる「三広会」を設立することが決まりました。当時は戦後の成長期の中で各企業グループの求心力が求められていた時期で、すでに三菱グループや住友グループでは共同でテレビ番組を提供するなどしており、三井グループ内でもPRの共同化を求める声が高まっていました。三広会は設立と同

時に、当時三井物産が提供していたテレビ番組「兼高かおる世界の旅」のお正月特別番組にグループ各社で共同参加するという形で、三井グループのPRを具体化。同年7月からは三井物産の単独提供から三井グループの共同提供に変わり、1972年には現在の三井広報委員会へと引き継がれ、三井グループとして16年間にわたってスポンサーを務めました。

「三広会」を発展的に解消し、新たに「三井広報委員会」が発足

1972年4月、三広会を発展的に解消し、三井広報委員会を発足。三広会は、企業が単に経済活動を行っていけば良いという時代は終わり、これからは企業も社会との調和や社会貢献に努力していくなければならぬこと、また、三井グループが発展していくためには、「グループの考え方」や「グループの真の姿」を社会に伝えて「理解」を得ることが必要であり、

社会に認められるための「努力」が重要であると考えました。そして、三井グループの真の姿を社会にアピールするためには、個々の企業がそれぞれ単独に努力するだけでなく、グループ企業が総力を結集して一企業では成し得ないようなスケールと内容をもって社会貢献を行うことが不可欠であることから、当時19社で構成されていた三広会をさらに拡充し、新たにグループ31社を結集した三井広報委員会をスタートさせました。三井広報委員会の目的は、国内や海外における三井グループの広報活動を推進し、社会の繁栄と福祉に寄与する三井グループのイメージを高めて広く内外に定着させることにあり、この目的を達成するために常に会員各社が知恵を出し合いながら時代の要請に的確に応える活動を展開し、今日に至っています。

『三井グラフ』が三井広報委員会の広報誌となる(1980~2005)

1980年、三井広報委員会は三井物産が1970年より発行してきた広報誌『三井グラフ』(季刊)を42号から引き継ぎ、グループ外へ向けてのPR誌として編集発行。三井グループの活動を広く一般の方に知ってもらい、そのイメージアップを図ることを目的にスタートさせました。1990年には当初の「三井グループ外向けのPR誌」というコンセプトを、グループ各社社員にも三井広報委員会の活動を理解してもらうために「三井グループ内外向けPR誌」に改め、全国の図書館、宿泊施設、病院などグループ各社に配布し、グループ内外に幅広く親しまれる広報誌を目指しました。(2005年141号をもって休刊)

全国各地へ日本を代表する知性との出会いの場を提供する『三井シンポジア・トゥモロウ』(1983~98)

1980年代、首都圏のみならず全国各地の産業や文化が活発になっていく時代潮流の中、三井広報委員会は各地の文化活動を応援していく方針を決め、その具体化を探っていました。そこで、1974年から三井物産が各都市で開催していた地域文化の活性化に貢献する三井教養セミナー「学びの出発」を引き継ぐかたちで更に内容を充実させ、1983年からは地域社会の主体性と参加性を重視した新しいシンポジウム形式の文化活動『三井シンポジア・トゥモロウ』をスタートさせました。コンセプトは、「学び・考える」ことに真剣に取り組んでいながら中央の文化に接する機会の少ない全国各地の人たちに、日本を代表する優れた知性との出会いを提供しようというもので、地元の自主性にボ

イントを置いた地元主導型のセミナー(講演会)として行うところが大きな特徴でした。しかし、スタート当時は珍しかったこの種のセミナーも、90年代に入ると全国各地で頻繁に行われるようになり、「開拓者」としての役割は終わったとの認識で、1998年3月を最後に終了することになりました。『三井シンポジア・トゥモロウ』は、16年という長期間にわたって、全国約370カ所で開催され、その聴講者の数は延べ13万人以上となりました。

日本の現代文化を海外に紹介する『クロースアップ・オブ・ジャパン』をスタート(1983~98)

経済大国として世界経済への日本の影響力が大きくなるにつれて諸外国からの誤解や摩擦が増え、深刻な問題になりつつあった80年代。原因が、相互のコミュニケーション不足とカルチャーギャップにあらゆるものは明らかでした。世界と日本の相

1983

[昭和58年]

- 全国各地で日本を代表する知性との出会いを提供しようと、各界の第一線で活躍中の多彩な講師陣をそろえたシンポジウム形式の文化活動「三井シンポジア・トゥモロウ」をスタート。
- 日本の現代文化を海外に紹介し、国際間の相互理解を深めることを目的とした国際文化交流事業「クロースアップ・オブ・ジャパン」の第1回をサンフランシスコで開催。日本の“生の文化”を紹介する民間初の文化交流活動として、国内外で注目を集める。



「三井シンポジア・トゥモロウ」



「第1回クロースアップ・オブ・ジャパン」
三宅一生 ボディーワークス

1985

[昭和60年]

- ロンドンで開催された「第2回クロースアップ・オブ・ジャパン」には当時皇太子の浩宮殿下(今上天皇)が来場されるなど、皇室の方々や各国の重鎮も来場された。



「第2回クロースアップ・オブ・ジャパン」オープニングセレモニーには浩宮殿下も来場

1986

[昭和61年]

- 三井広報委員会が従来の「ダイヤモンドグラブ賞」の提供を引き継ぎ、「三井ゴールデン・グラブ賞」と名称を改め、新たなスタートを切る。



三井広報委員会の提供となり新たなスタートを切った
「第15回三井ゴールデン・グラブ賞」の表彰式

1988

[昭和63年]

- 世界各国の代表的な現代演劇人やグループなどを招いて、生のステージを紹介する「三井フェスティバル東京」をスタートさせ、1996年まで隔年で計5回開催。演劇をはじめ、ダンス、パントマイムなど日本で初めて紹介されたプログラムも多く、観客に新鮮な感動を与える。



「第1回三井フェスティバル東京」日本および
諸国の演劇のほか、フランスとブラジルのダンス、インドの古典舞踏を紹介

1992

[平成4年]

- 三井広報委員会創立20周年を記念して「山下洋輔ピアノコンサート」を開催。



三井広報委員会20周年記念「山下洋輔ピアノコンサート」

1998

[平成10年]

- 「三井シンポジア・トゥモロウ」の特別企画「誰でもわかるオペラ入門」を東京で開催。
- 「クロースアップ・オブ・ジャパン」や「三井フェスティバル東京」などの文化活動が国際交流に果たした貢献度が評価され、外務大臣表彰を受ける。
- 「クロースアップ・オブ・ジャパン」「三井シンポジア・トゥモロウ」などの文化事業を見直し、新たな文化支援活動「三井コラボレーション」をスタート。国内第1弾は沖縄県那覇市でりんけんバンドとの共演による「国府弘子サウンドスケッチinジャパン」。



小淵恵三外務大臣(当時)から「外務大臣表彰」を受ける八尋俊邦(当時)



「三井コラボレーション」記者発表会(1998年12月)

1990年代

互理解の溝が深まっていく現実を目の当たりにし、孤立感を強めていく日本の状況を憂慮した三井広報委員会では、現代の文化を中心として日本のありのままの姿を世界中の人々に紹介し、そこから日本に対する真の信頼と理解を得ることを目的とした企画を検討しました。それが『クロースアップ・オブ・ジャパン』というかたちになり、1983年にスタートすることになったのです。それまでの日本の紹介といえば、貿易を目的とした商品の展示や古い伝統芸術の紹介がほとんどでしたが、現代の日本の文化が欧米の文化先進国と比べても決して見劣りしないことを示すために日本の多彩な現代文化を紹介することに主眼を置いた、民間として初めての試みとなりました。第1回は1983年9月からサンフランシスコで開催され、以降は毎年、ロンドン、ニューヨーク、ミネアポリス＆ロサンゼルス、パリ、シドニー、バンコク、トロント、クアラ

ルンプール、ベルリン、リスボン、アトルンタ、サンパウロ＆リオ・デ・ジャネイロ、ジャカルタ、ニューデリー、モスクワと、16年にわたって世界18都市で開催し、皇室の方々や各国の重鎮が来場されるなど注目度も高く、毎回熱狂的ともいえる大きな反響を呼びました。優れた日本文化は世界的にも第一級の文化であることが海外の人々にも理解され、文化によるコミュニケーションの輪が大きく広がりました。『クロースアップ・オブ・ジャパン』は1998年のモスクワを最後に、新たな文化支援活動『三井コラボレーション』に引き継がれることになります。

**プロ野球の守備の
ベストナインに贈られる
『三井ゴールデン・グラブ賞』の
スポンサーに(1986~)**

1986年12月、プロ野球の守備のベストナインに贈られる『三井ゴールデン・グラ

ブ賞』の表彰式が東京・大手町の三井物産本社で盛大に行われました。前年度までは三井物産スポーツ用品販売が提供スポンサーとなり『ダイヤモンドグラブ賞』の名称で表彰が行われていましたが、第15回を迎えたこの年度から三井広報委員会が提供を受け継ぐこととなり、名称も『三井ゴールデン・グラブ賞』に改め新たなスタートを切った最初の表彰式でした。それまでの表彰は、翌年の開幕戦時に受賞選手に対して個別に行われていましたが、この年度からプロ野球シーズン後に受賞選手全員を一堂に集めて表彰することとなり、表彰式は一層華やかなものになりました。また、表彰式には都内の養護施設の子どもたちを招待し、表彰式後の懇親パーティで憧れの選手と一緒にやかに話す風景なども見られました。2008年からは表彰式の開催を夜から昼にうつし、毎年多くの報道陣が集まるなか、その年の守備のベストナインの表彰に注目が寄

せられています。『ダイヤモンドグラブ賞』として本賞が制定された1972年から40周年にあたる2011年には、記念特別番組(BSフジ)や記念冊子を制作し、40年の軌跡をあらためて振り返りました。

**東京で本格的な国際舞台芸術祭
『三井フェスティバル東京』を
隔年開催(1988~96)**

三井広報委員会は、内から外への国際交流として『クロースアップ・オブ・ジャパン』を世界各地で開催しましたが、1988年からは外から内への文化事業として、東京で本格的な国際舞台芸術祭『三井フェスティバル東京』の開催をスタートさせました。当時、世界各地で舞台芸術のフェスティバルは盛んに行われていましたが、国内ではほとんど実績が無く、国際都市・東京に世界の舞台芸術が集まる祭典がないのはいかにも寂しいということで、東京で初めて国際的な芸術祭を

開くことになりました。『三井フェスティバル東京』は、1988年から96年までの隔年に計5回開催し、日本の舞台芸術界に大きな足跡を残しました。

**三井広報委員会の20周年を記念し、
『山下洋輔ピアノコンサート』を開催**

1992年は、三井広報委員会が発足してからちょうど20周年、『クロースアップ・オブ・ジャパン』のスタートから10年目に当たる年となり、これを記念して11月に東京・池袋の東京芸術劇場大ホールで『山下洋輔ピアノコンサート』を開催しました。コンサートは『クロースアップ・オブ・ジャパン』トロント1990でのコンサートを再現したものの、和太鼓のレナード衛藤氏との二重奏や井上道義氏指揮の新日本フィルハーモニー交響楽団との協奏「ラプソディー・イン・ブルー」も演奏され、会場を熱気の渦に巻き込みました。コンサートの後、会場に隣接する

ホテルで20周年記念のレセプションを開催し、各界諸氏やマスコミ関係者など約400人が列席。挨拶に立った八尋俊邦三井広報委員会会長(当時)は、「三井グループの文化支援活動を景気の動向などに左右されることなく持続させ充実させていく」と力強く誓い、会場は大きな拍手に包まれました。

**三井広報委員会の国際文化支援活動
が『外務大臣表彰』受賞**

1998年7月8日、『クロースアップ・オブ・ジャパン』などの開催を通して国際文化交流の推進に貢献した功績に対し、外務省から『平成10年度外務大臣表彰』が授与されました。授賞理由は「同団体は三井グループ各社が参加して、わが国の現代芸術を海外に紹介する『クロースアップ・オブ・ジャパン』を諸外国において毎年開催、さらに外国の舞台芸術をわが国に紹介する『三井フェスティバル

1999

[平成11年]

- 「三井コラボレーション」海外第1弾は1999年中文化友好年事業の一環として、日本側の主役に和泉元彌氏を起用した楽曲劇『天人』を北京で開催。
- 社会貢献活動の一環として、障がいのある方々が働く小規模共同作業所で作られた商品を販売する「ふれあいマーケット」の1回目を「三井コラボレーション」の会場(札幌)で開催。



「ふれあいマーケット」

2000

[平成12年]

- 日蘭交流400周年を記念して「三井コラボレーション」の海外第2弾「安倍圭子マリンバコンサート」と、CGアーティスト・原田大三郎氏とテクノミュージシャン・スピーディJ氏のコラボレーションライブをオランダで開催。
- coba氏プロデュースの「三井コラボレーション『光と音のページント』『天使は空から降ってくる』」を福岡で開催。



coba氏プロデュース「三井コラボレーション『光と音のページント』」

2001

[平成13年]

- 「三井コラボレーション『リーディングドラマ『天国の本屋』』を開催。以降も各地で再演を重ねる。
- 芝居と音楽を融合した「三井コラボレーション『ドラマコンサートミッシング・ピース』」を東京で上演。
- イギリスにおける日本年JAPAN 2001の公式行事として、「三井コラボレーション」の海外第3弾「仮面舞踏劇『天照』、『ジミー大西×ジェーン・パッカーエキシビション』Energy of Nature」をロンドンで開催。



「リーディングドラマ『天国の本屋』」



「ジミー大西×ジェーン・パッカーエキシビション』Energy of Nature」

2002

[平成14年]

- 「ジミー大西展『Energy of Nature』」を恵比寿ガーデンプレイス、京都駅コンコースにて開催。その後、2004年5月まで全国通算13カ所で開催される「ジミー大西絵画展『世界を巡る絵筆の冒険』」に特別協賛(主催:朝日新聞社)。

2003

[平成15年]

- 文化・教育・福祉の支援プログラムとして全国各地にクラシックの演奏家を派遣する「ふれあいトリオ」をスタート。2008年までに、北海道根室から鹿児島県沖永良部島まで、全国各地で約250公演を行う。



「ふれあいトリオ」

2008

[平成20年]

- 三井グループおよびグループ各社の「人」に焦点を当てた社会貢献活動やさまざまな取り組みを総称したPR「三井ヒューマンプロジェクト」をスタート。

「三井ヒューマンプロジェクト」新聞広告
(日経新聞 2009年4月2日付)

2009

[平成21年]

- 三井グループ社員の相互理解を深めるグループ・コミュニケーション誌「MITSUI Field」を創刊。
- 三井の事業精神や先見性、創造性をグループ各社に改めて知っていたくことを目的に、DVD「三井のこころ」を制作。



「MITSUI Field」創刊号

2000年代

東京』を隔年開催し、これらの事業を通じて我が国と諸外国との国際文化交流および相互理解の増進に多大な貢献をされた(要旨)というものです。東京・港区の外務省飯倉公館で行われた表彰式では、小渕恵三外務大臣(当時)から八尋俊邦三井広報委員会会長(当時)に表彰状が手渡され、民間企業関連では唯一の受賞となりました。

これまでの文化支援活動をさらに進化・発展させた『三井コラボレーション』(1998~2004)

三井広報委員会は、これまで『クロースアップ・オブ・ジャパン』や『三井シンボルジア・トゥモロウ』などを通じて、海外での現代日本の文化に対する認識を高めるとともに、国内において人々の文化的関心の高まりに大きく貢献してきました。しかし、当初は珍しかったこれらの事業

スタイルも、年々さまざまな団体が行うようになり、三井広報委員会が“開拓者”として目指した役割は終えたと考えられるようになりました。そこで、1年以上をかけて模索し出した答えが、これまでの事業をさらに進化・発展させた新たな文化支援活動『三井コラボレーション』でした。国内外で活躍するアーティストに交流の場を提供し、コラボレーションを通して新しい日本文化の創造を図るもので、アーティストに自らのテーマに取り組む場を提供して国内外で公開し、さらにそのプロセスや作品をドキュメントとして残し、活用していくことを目的としました。1998年のスタート時に趣旨に共鳴して参加したアーティストは、ピアニスト・作曲家の国府弘子氏、CGアーティスト原田大三郎氏、アコーディオン奏者coba氏、狂言師の和泉元彌氏、作曲家三木稔氏の5人で、12月の記者発表では各氏より期待と抱負が述べられま

した。また、八尋俊邦三井広報委員会会長(当時)は「新しいものが定着するまでにはこれから実績を重ねていく必要がある。皆様から忌憚のない助言をいただき、日本文化を支えるために、絶え間ない支援、努力をしていくつもりです」と決意を語りました。その後2004年まで、国内はもとより、海外における日本との交流行事にて公演を行うなど、いずれも成功をおさめました。

『ふれあいマーケット』など 三井グループとしての 社会貢献活動を開始 (1999~2008)

三井広報委員会では、三井グループが積極的に展開すべき活動は文化支援だけにとどまらず、何らかの社会的な貢献も必要ではないかと考え、1999年10月に札幌で開催された『三井コラボレーション』の会場において、グループとしての

社会貢献活動をスタートしました。札幌市には、障がいのある方々がさまざまな商品を作りながら社会参加を目指すネットワーク組織・札幌市小規模作業所連絡協議会があり、その傘下の小規模共同作業所に販売の場を提供し、三井グループ社員がエプロン姿で販売を手伝うことになりました。作業所で心を込めて作られた商品の販売に協力することで、少しでもその認知向上に役立てばとの想いで行った結果、商品に対する好意的な評価とともに、グループ各社社員から、社会貢献の大切さを実感できたとの声が多く寄せられました。そこで三井広報委員会では、この活動を『ふれあいマーケット』と名付け、その後行われた『三井コラボレーション』の会場にて開催したのち、2003年からスタートする『ふれあいトリオ』事業の一環として、継続的な活動へと展開してきました。

文化・教育・福祉の 支援プログラムとして 『ふれあいトリオ』を開始 (2003~08)

2003年4月からは新たな事業として『ふれあいトリオ』を開始しました。“教育+文化支援”をコンセプトに全国各地にクラシックの演奏家を派遣し、現地ホールが主催する「ふれあいコンサート」、近隣の小中学校などでミニコンサートと音楽指導を行う「ふれあいプログラム」、そしてコンサートホールのロビーで障がいのある方々の作業所で作られた商品の販売機会を提供する「ふれあいマーケット」、これらを『ふれあいトリオ』の3つの柱として展開。生の音楽を聴く機会の少ない子どもや高齢者・障がいのある方などに質の高い音楽にふれていただく場を提供するとともに、ヴァイオリンの演奏体験や音楽にあわせて体を動かすボディパーカッションなど、聴衆や開催地

域との一体感を生むイベントとして大きな盛り上がりをみせ、2008年の事業終了までに全国各地で約250公演を行い、参加者は延べ約6万人を数えました。

三井グループ内の相互理解と グループ意識の醸成を目指して グループ・コミュニケーション誌 『MITSUI Field』を創刊(2009~)

野球を中心としたスポーツ支援というアウター(三井グループ外)向けの活動と並行して、2009年1月、インナー(三井グループ内)向けに、グループ各社の相互理解とグループ意識の醸成を目指して、グループ・コミュニケーション誌『MITSUI Field』(季刊)を創刊しました。340余年という三井の歴史を踏まえて今あるグループ各社社員間の相互理解とコミュニケーションの活性化の一助となるべく、毎号三井の歴史やグループ各社とその社員の情報をさまざまな角度から紹介しています。

2010

[平成22年]

- 三井ゴールデン・グラブ賞を受賞した元プロ野球選手を講師とする指導者向け野球教室『三井ゴールデン・グラブ野球教室』をスタート。



「三井ゴールデン・グラブ野球教室」

2011

[平成23年]

- 「三井ゴールデン・グラブ賞」40周年を迎える。40年の記念としてBSフジ特別番組「第40回三井ゴールデン・グラブ賞～球史を飾った名手たち～」、記念誌「三井ゴールデン・グラブ賞40年の軌跡」を制作。



「三井ゴールデン・グラブ賞」40周年を記念し、表彰式には山本浩二氏、福本豊氏が来場

2012

[平成24年]

- 「三井広報委員会」発足40周年を迎える。40年のあゆみを振り返る記念誌「三井広報委員会40年史」を制作。



「三井広報委員会40年史」

2013

[平成25年]

- 東日本大震災で被災した子どもたちへの教育支援を行う「公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン」の活動に賛同し、2013-15年寄付を実施。

2015

[平成27年]

- 日本の伝統文化を継承しつつも、新たに革新的アイデアを積極的に取り入れることで、さらに発展させていく個人またはグループを表彰する「三井ゴールデン匠賞」を創設。



第1回「三井ゴールデン匠賞」ポスター

三井広報委員会 これまでのあゆみ

2010年代

少年野球指導者を対象とした『三井ゴールデン・グラブ野球教室』を開催（2010～）

2008年には、「人の三井」という三井グループらしさをベースに、人を大切にし多様な個性と価値を尊重することで社会を豊かにしたいという想いを込めて『三井ヒューマンプロジェクト』を立ち上げました。その一環として2010年3月より、三井ゴールデン・グラブ賞を受賞した元プロ野球選手を講師とする、少年野球の指導者を対象とした野球教室『三井ゴールデン・グラブ野球教室』をスタートさせ、毎年2回、全国各地で開催しています。2019年9月の越谷教室では、第20回を記念して王貞治氏((一財)世界少年野球推進財団理事長)を特別ゲストに、また講師には西崎幸広氏(投手・日本ハムOB)、里崎智也氏(捕手・ロッテOB)、田中幸雄氏(内野手・日本ハムOB)、柴原洋氏(外野手・ソフトバンク

OB)と、トレーナーとして吉田直人氏(NSCA ジャパン ヒューマンパフォーマンスセンター)の5名に加え、松岡未希子氏(エームサービス(株)公認スポーツ栄養士・管理栄養士)を迎え、100名近い受講者に向け、「守備」を中心とした野球の基本技術や理論、子どもたちがケガをしないための正しい練習とその指導方法だけでなく「食育」の面からも、講義と実技指導を行いました。指導者を対象にした野球教室は珍しく、受講者からも好評を博しています。今後も全国各地にて本教室を開催し、子どもたちが大好きな「野球」というスポーツにケガをせず一生懸命取り組めるように、子どもたちの夢を応援していきたいと考えています。

日本の伝統を次世代につなぐ 「匠」を表彰『三井ゴールデン匠賞』創設（2015～）

「人を大切にし、多様な個性と価値を尊

重することで社会を豊かにする」という理念のもと、例えば野球では、土台ともいえる守備陣に光を当てたいとの想いから、三井ゴールデン・グラブ賞を40年以上にわたり提供してきました。日本の伝統工芸においても、昨今、後継者不足など課題があるなか、革新的な取り組みをされている方がいらっしゃいます。日本の伝統を継承しながら未来につながるものづくりに真摯に取り組み、さらに発展させている伝統工芸の担い手に注目と称賛が集まる機会を創りたい—そんな想いから、新たに2015年に「三井ゴールデン匠賞」を創設しました。第1回(2016年)、第2回(2018年)、第3回(2020年)では、各5組の「三井ゴールデン匠賞」受賞者のなかから、一般投票で選ばれたモストポピュラー賞、そしてグランプリが発表されました。

本賞を通して、日本の伝統を次世代につなぐ取り組みを応援していきます。

1961年	<ul style="list-style-type: none"> ●1月1日、三井グループ8社により、三井広報委員会の前身である「三広会」が発足。 ●7月31日、テレビ番組「兼高かおるの世界の旅」の番組スポンサーが三井物産から三広会へ。 	1991年	<ul style="list-style-type: none"> ●4月24日～5月9日、第9回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をクアランブル(マレーシア)で開催。 	2001年	<ul style="list-style-type: none"> ●1月25・26日、「三井コラボレーション『リーディングドラマ『天国の本屋』』を東京で上演。 ●2月27・28日、「三井コラボレーション『ドラマコンサート『ミッシング・ビーズ』』を東京で上演。 ●5月24～26日、「三井コラボレーション『海外第3弾をロンドンで開催。 ●9月20～30日、「三井コラボレーション『シミー大西×ジェーン・バッカーエキシビション『Energy of Nature』』をロンドンで開催。 ●11月20日、「三井コラボレーション『国府弘子サウンドスケッチ in ジャパン』を長野で開催。
1970年	<ul style="list-style-type: none"> ●4月、三井物産から「三井グラフ」が創刊。 	1992年	<ul style="list-style-type: none"> ●4月1～30日、第10回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をベルリンで開催。 ●5月21日～6月7日、第3回「三井フェスティバル東京」を開催。 ●三井広報委員会第20周年として、11月2日に東京・池袋で「山下洋輔ピアノコンサート」および20周年記念レセプションを開催。 	2002年	<ul style="list-style-type: none"> ●3月28～31日、「三井コラボレーション『リーディングドラマ『天国の本屋』』を東京で上演。
1972年	<ul style="list-style-type: none"> ●4月1日、三広会を発展的に解消し、「三井広報委員会」が発足。 	1993年	<ul style="list-style-type: none"> ●4月27日～6月27日、第11回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をリスボン(ポルトガル)で開催。 	2003年	<ul style="list-style-type: none"> ●4月、文化・教育・福祉の支援プログラムとして「ふれあいトリオ」をスタート。 ●北海道江別市を皮切りに、年間全国10ヶ所以上の市町村で開催。 ●11月3～30日、New York 日本ギャラリーにて開催の「シミー大西作品展～原始の眼～」(主催:NY日本クラブ・吉本興業)に協賛。 ●12月4～27日、「リーディングドラマ『天国の本屋』(出演:須賀貴匡・紺野まひる・ルーダ大柴)の再々演に特別協賛。
1977年	<ul style="list-style-type: none"> ●3月27日、同日放送分の「兼高かおるの世界の旅」がスポンサーとして最後の番組となり、4月3日からはテレビクイズ番組「世界をあなたに」をオンエア。 	1994年	<ul style="list-style-type: none"> ●4月2日、「世界をあなたに」に替わり「世界にかける橋」の提供開始。 ●夏休みに「相模湖ピクニックランド」(神奈川県)と「三井グリーンランド」(福岡県)で、子どもたちに虫かご2万個をプレゼント。 	2004年	<ul style="list-style-type: none"> ●映画「天国の本屋～恋火～」(配給:松竹主演:竹内結子 玉山鉄二)の日本語字幕版制作に協賛。
1978年	<ul style="list-style-type: none"> ●4月27日、提供テレビ番組「世界にかける橋」で鳥飼政美さんのワンポイント英語コーナーを新設。 ●12月、「三井グラフ」週刊42号から三井広報委員会の発行となる。 	1995年	<ul style="list-style-type: none"> ●10月30日～12月17日、第13回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をサンパウロ/リオ・デ・ジャネイロ(ブラジル)で開催。 	2007年	<ul style="list-style-type: none"> ●7月、200回目となる「ふれあいコンサート」を開催。2008年の終了までに約250公演、参加者6万人以上を数えた。
1980年	<ul style="list-style-type: none"> ●4月27日、提供テレビ番組「世界にかける橋」で鳥飼政美さんのワンポイント英語コーナーを新設。 ●12月、「三井グラフ」週刊42号から三井広報委員会の発行となる。 	1996年	<ul style="list-style-type: none"> ●5月3～15日、最後となる第5回「三井フェスティバル東京」を開催。 ●6月6～30日、第14回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をジャカルタ(インドネシア)で開催。 	2008年	<ul style="list-style-type: none"> ●三井グループおよびグループ各社の“人に焦点を当てた社会貢献活動や様々な取り組みを総称したPR「三井ヒューマンプロジェクト」をスタート。
1981年	<ul style="list-style-type: none"> ●5月7日、霞が関ビル36階に三井グループのPRの場「三井スカイプロムナード」がオープンし、11日より無料公開。 	1997年	<ul style="list-style-type: none"> ●2月8日～3月2日、第15回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をニューデリー(インド)で開催。 	2009年	<ul style="list-style-type: none"> ●1月、三井グループ社員の相互理解を深めるグループ・コミュニケーション誌「MITSUI Field」を創刊。 ●三井の事業精神や先見性・創造性をグループ各社に改めて知りたいことを目的に、DVD「三井のこころ」を制作。
1982年	<ul style="list-style-type: none"> ●9月26日、同日放送の「世界にかける橋」をもって同スポンサーを終了。 	1998年	<ul style="list-style-type: none"> ●2月6日～4月14日、第2回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をロンドンで開催。 ●11月17日～86年2月28日、第3回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をニューヨークで開催。 	2010年	<ul style="list-style-type: none"> ●3月、三井ゴールデン・グラブ賞受賞歴のあるプロ野球OBによる指導者向け野球教室『三井ゴールデン・グラブ野球教室』をスタート。
1983年	<ul style="list-style-type: none"> ●5月7日、第1回「三井シンポジア・トゥモロウ」を大分市で開催。 ●9月14日～11月30日、第1回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をサンフランシスコで開催。 	1999年	<ul style="list-style-type: none"> ●4月20日～7月20日、第4回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をミネアポリス(米国)で、9月1日～10月26日にはロサンゼルスで開催。 ●11月26日、「三井広報委員会が提供を引き継ぎ、ダイヤモンドグラブ賞から『三井ゴールデン・グラブ賞』に名称を改め、12月10日に表彰式を開催。 	2011年	<ul style="list-style-type: none"> ●「三井ゴールデン・グラブ賞」が40周年を迎える。記念特別番組(BSフジ)と記念誌を制作。
1985年	<ul style="list-style-type: none"> ●2月6日～4月14日、第2回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をロンドンで開催。 ●11月17日～86年2月28日、第3回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をニューヨークで開催。 	2000年	<ul style="list-style-type: none"> ●1月30日、「三井シンポジア・トゥモロウ」特別企画「誰でもわかるオペラ入門～三枝成彰のトークとオペラアリアコンサート」を東京で開催。3月をもって、「三井シンポジア・トゥモロウ」終了。 ●7月8日、三井広報委員会の国際文化交流支援活動が評価され、「外務大臣表彰」を授与される。 ●9月11日～10月3日、最後となる第16回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をモスクワで開催。 ●12月16日、「三井コラボレーション」の国内第1弾、「国府弘子サウンドスケッチ in ジャパン」(国府弘子+りんりんパン)を那覇で開催。 ●三井広報委員会ホームページ開設。 	2012年	<ul style="list-style-type: none"> ●「三井ゴールデン・グラブ賞」が40周年を迎える。
1986年	<ul style="list-style-type: none"> ●4月20日～7月20日、第4回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をミネアポリス(米国)で、9月1日～10月26日にはロサンゼルスで開催。 ●11月26日、「三井コラボレーション」が提供を引き継ぎ、「ダイヤモンドグラブ賞から『三井ゴールデン・グラブ賞』に名称を改め、12月10日に表彰式を開催。 	1999年	<ul style="list-style-type: none"> ●6月9日、「三井コラボレーション」原田大三郎CG in シンフォニー「メタボール」を東京で開催。 ●7月8～16日、「三井コラボレーション」の海外第1弾を北京/上海で開催。 ●7月24日、coba氏プロデュースの「三井コラボレーション」ミュージックスペース「テクノキャバレー」を新潟で開催。 ●10月13日、「三井コラボレーション」国府弘子サウンドスケッチ in ジャパンを札幌で開催。同時に第1回となる「ふれあいマーケット」を開催。 ●11月21日、「三井コラボレーション」リーディングドラマ「zelkova(ゼルカーヴァ)」を東京で上演。 	2013年	<ul style="list-style-type: none"> ●「チャンス・フォー・チルドレン」へ寄付を実施。
1987年	<ul style="list-style-type: none"> ●10月14～29日、第5回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をパリで開催。 	1999年	<ul style="list-style-type: none"> ●11月3日～12月17日、第7回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をバンコクで開催。 ●成城大学、青山学院大学、学習院大学などの学園祭における街の清掃活動「CAMPUS SWEEPER 学園キャラバン隊」を応援。大学周辺の商店街などを清掃するというもので、地元の人々からも好評を得る。 	2014年	<ul style="list-style-type: none"> ●9月、特別ゲストに王貞治氏を迎え、第10回三井ゴールデン・グラブ野球教室を福岡にて開催。
1988年	<ul style="list-style-type: none"> ●5月12日～6月17日、第1回「三井フェスティバル東京」を開催。 ●5月18日～7月3日、第6回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をシドニーで開催。 ●10月、三井広報委員会企画のPR映画「三井300年の歩み」が完成。 	1999年	<ul style="list-style-type: none"> ●6月9日、「三井コラボレーション」原田大三郎CG in シンフォニー「メタボール」を東京で開催。 ●7月8～16日、「三井コラボレーション」の海外第1弾を北京/上海で開催。 ●7月24日、coba氏プロデュースの「三井コラボレーション」ミュージックスペース「テクノキャバレー」を新潟で開催。 ●10月13日、「三井コラボレーション」国府弘子サウンドスケッチ in ジャパンを札幌で開催。同時に第1回となる「ふれあいマーケット」を開催。 ●11月21日、「三井コラボレーション」リーディングドラマ「zelkova(ゼルカーヴァ)」を東京で上演。 	2015年	<ul style="list-style-type: none"> ●9月、日本の伝統文化において「伝統×インバーション」を実現している担い手を表彰する「三井ゴールデン匠賞」を創設。第1回の募集を開始する。
1989年	<ul style="list-style-type: none"> ●11月3日～12月17日、第7回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をバンコクで開催。 ●成城大学、青山学院大学、学習院大学などの学園祭における街の清掃活動「CAMPUS SWEEPER 学園キャラバン隊」を応援。大学周辺の商店街などを清掃するというもので、地元の人々からも好評を得る。 	1999年	<ul style="list-style-type: none"> ●5月10日～6月10日、第2回「三井フェスティバル東京」を開催。 ●6月、JR有楽町駅に三井広報委員会の電飾看板を掲示。 ●8月31日、1981年から続いた「三井スカイプロムナード」終了。 ●9月27日～10月19日、第8回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をトロント(カナダ)で開催。 	2016年	<ul style="list-style-type: none"> ●3月、第1回「三井ゴールデン匠賞」贈賞式を開催し、5組の匠を表彰。
1990年	<ul style="list-style-type: none"> ●5月10日～6月10日、第2回「三井フェスティバル東京」を開催。 ●6月、JR有楽町駅に三井広報委員会の電飾看板を掲示。 ●8月31日、1981年から続いた「三井スカイプロムナード」終了。 ●9月27日～10月19日、第8回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をトロント(カナダ)で開催。 	1999年	<ul style="list-style-type: none"> ●5月10日～6月10日、第2回「三井フェスティバル東京」を開催。 ●6月、JR有楽町駅に三井広報委員会の電飾看板を掲示。 ●8月31日、1981年から続いた「三井スカイプロムナード」終了。 ●9月27日～10月19日、第8回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をトロント(カナダ)で開催。 	2016年	<ul style="list-style-type: none"> ●3月、第1回「三井ゴールデン匠賞」贈賞式を開催し、5組の匠を表彰。

三井の歴史

三井の歴史は、三井高利が延宝元年(1673)に現在の東京・日本橋本石町に「三井越後屋呉服店」を開業したところからはじまりました。「現銀(金)掛け値なし」「店先売り」など画期的な新商法で事業を発展させ、その後に続く銀行業などの拡大の礎を築きました。三井グループは、越後屋呉服店の創業以来340年を超えて、現在に続いています。

三井史を彩る人々



三井 高利

1622~1694年

三井グループの歴史の源となる三井家の元祖。画期的な新商法で財産を築いた。



三野村 利左衛門

1821~1877年

幕末維新期の三井の大番頭。幕府からの御用金の減額を実現し、三井銀行設立に貢献。



益田 孝

1848~1938年

旧三井物産初代社長。海外貿易に乗り出し、近代日本の工業化と経済発展に尽力した。



中上川 彦次郎

1854~1901年

三井銀行副長。官金依存型の経営から脱却させ、日本の近代工業の育成を図った。



團 琢磨

1858~1932年

三井合名会社理事長。三池炭礦事務長として世界的な最新技術を導入、三池港を築港。



池田 成彬

1867~1950年

三井銀行常務取締役。外国支店の拡充、外国為替業務と証券業務に尽力した。

江戸期

三井高利の「越後屋」

江戸の庶民に呉服を広め、独創的な販売手法で飛躍的に成長

三井の歴史は、三井高利が延宝元年(1673)に開業した「越後屋呉服店」に始まる。越後屋は「現銀(金)掛け値なし」「店先売り」などの画期的な新商法で事業の飛躍的拡大に成功。18世紀には小売商として世界最大規模を誇るに到った。天和3年(1683)に新設した両替店は、幕府公金「御為替御用」を引き受け、呉服と共に三井の主要事業となった。宝永7年(1710)、事業と一緒に統轄する大元方を設置し、享保7年(1722)には三井家の家憲「宗竺遺書」が制定された。事業の共有制が三井の原則となり、それは第二次世界大戦後の財閥解体時まで維持された。

明治期

三井の財閥体制確立

銀行、物産、鉱山を基盤に、人材重視と各社の連携で発展

幕末から明治維新にかけて多くの豪商が没落していく激動期を、三井は「大番頭」と称された三野村利左衛門の活躍によって乗り越えた。維新後は新政府の公金取扱を担い、明治9年(1876)に、三井銀行(現・三井住友銀行)と旧三井物産^{*}を創立。明治21年(1888)には官営三池鉱山を落札し、三井鉱山に発展させた。旧三井物産の益田孝、三井銀行の中上川彦次郎、三井鉱山の團琢磨など傑出したリーダーの指揮による各社の発展によって三井の事業基盤が固められ、日本の近代化にも大きな貢献を果たした。明治42年(1909)に持株会社・三井合名会社が設立され、財閥としての体制が確立した。

* 法的には旧三井物産と現在の三井物産には継続性ではなく、全く別個の企業体である。

1673

1683

1710

1876

1909

三井高利が江戸本町に三井越後屋呉服店、京都に仕入れ店を開業

江戸に三井両替店を開業

家政と經營を一元的に管理する大元方設立

日本初の民間銀行・三井銀行誕生、旧三井物産創立

三井財閥の持株会社・三井合名会社設立



三井高利夫妻像／三井家の元祖・三井高利(1622~1694)は延宝元年(1673)に江戸本町に三井越後屋呉服店、京都に仕入れ店を設けた。越後屋は「現銀(金)掛け値なし」「店先売り」「布の切り売り」「即座に仕立てて渡す」などの新商法で、江戸、京都、大阪の三都市に呉服店、仕入れ店、両替店をもつ大店となつた。



「丸に井桁三」は三井高利が越後屋の暖簾に使用した三井の代表的な店章であり、天和元年(1681)頃から使用されている。着想は高利の母・殊法の夢想によるものとされており、「丸は天、井桁は地、三は人」を意味し、「天地人」の三才を表していると言われる。



駿河町越後屋正月風景図／現在の東京・日本橋室町にある三井本館と日本橋三越本店の間の日本銀行を望む通りは両側に店を構える越後屋によって大いに賑わいを見せていた。

大正・戦前期

財閥としての成熟

昭和恐慌から戦時経済へ、舵取りの難しい時代を迎える

第一次世界大戦期から1920年代にかけて、三井の各事業は飛躍的に発展し、傘下会社の数も増加、財閥としての成熟期を迎えた。その時代を象徴するのが、三井八郎右衛門高棟(三井合名会社社長)と團琢磨(同理事長)のコンビであった。昭和7年(1932)、昭和恐慌下での反財閥気運の高まりの中で、團琢磨が暗殺された。三井は、池田成彬を三井合名会社筆頭常務理事に登用して一連の改革策を打ち出し、難局を乗り切った。日中戦争から太平洋戦争の時代に、戦時経済のもとで三井の事業規模は一層拡大したが、経済統制や軍部への対応などに苦慮する時代でもあった。

1929

1946

1950

1961

2005

2011

2013

東京・日本橋区駿河町に三井本館竣工

GHQの財閥解体指令により、三井本社解散

月曜会発足

二木会および三広会(現・三井広報委員会)発足

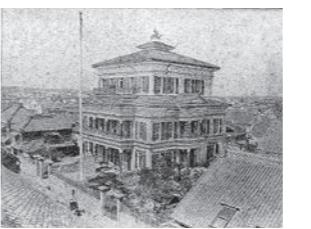
三井本館内に三井記念美術館開館

社会福祉法人三井記念病院の建替工事が全体竣工

三井グループ会員制クラブ「綱町三井俱楽部」竣工100周年



宗竺遺書／三井高利の遺言「宗寿居士古遺言」を嫡男・高平が集大成し享保7年(1722)に家法として定めた。一族の和の大切さをはじめ、三井家と三井家にかかわるすべての人々の繁栄を、さらに事業の発展を永続させていくための基礎的な戒律が、こと細かに書きされている。



駿河町三井組ハウス／明治7年(1874)、三井は駿河町に「為換・バンク三井組」を設立し、明治9年(1876)には日本初の民間銀行として三井銀行(現・三井住友銀行)が誕生した。これにより三井家は呉服業を分離し本格的に銀行業に進出した。



駿河町三井組ハウス／明治7年(1874)、三井は駿河町に「為換・バンク三井組」を設立し、明治9年(1876)には日本初の民間銀行として三井銀行(現・三井住友銀行)が誕生した。これにより三井家は呉服業を分離し本格的に銀行業に進出した。



昭和25年(1950)、三井19社の首脳が三井本館に集まり「月曜会」が発足した。昭和36年(1961)には三井グループをPRする三広会(現・三井広報委員会)、さらに中核企業の社長会として二木会が発足。三井グループは、その後も事業活動に加えて三井記念病院や三井文庫、三井記念美術館への支援など社会の発展を支え続けた300年以上に及ぶ三井の使命を戦後も継続し、積極的に果たしている。(写真は三井グループ各社の支援により2011年に建替工事が全体竣工した三井記念病院)

※ 写真提供:公益財団法人 三井文庫/三井不動産/社会福祉法人 三井記念病院

戦後期

財閥解体とグループ集約

社会の発展を支え続けるために、分断された三井各社が再結集

戦後、三井本社(三井合名会社の後身)は、GHQの指令にもとづき解散を余儀なくされた。三井傘下の各社は、親会社を失い、横の連携も分断されたが、昭和25年(1950)、三井19社の首脳が集まり「月曜会」が発足。さらに、昭和31年(1956)に「三井商号商標保全会」、昭和36年(1961)には三井グループを共同でPRする「三広会(現・三井広報委員会)」と中核企業の社長会として「二木会」が発足。二木会、月曜会はその後も三井家事業の歴史を共有する企業の参加を得て、三井グループは日本を代表する企業グループとして存在感を示している。

社会の繁栄と福祉に貢献し、今なお広がる三井グループの輪

これらに加え、三井グループは、三井記念病院や三井文庫、三井記念美術館への支援、三井業界研究所における調査・研究、三井ボランティアネットワーク事業団の活動などをはじめ、様々なサステナビリティ活動を通じて、国際交流や地域社会の活性化、環境問題に貢献するとともに、社会の繁栄と福祉に寄与している。現在の三井グループは社長会である二木会加盟会社25社を中核企業として、この二木会加盟会社と月曜会加盟会社75社で構成されている。

三井の歴史

一覧年表

江戸	
江戸初期	三井高俊(三井高利の父)が妻・殊法と伊勢・松坂で酒・味噌・質の商いを始める
元和8年 1622年	三井家の元祖・三井高利誕生
寛永12年 1635年	高利、14歳で松坂を出立、長兄の店に奉公する
慶安2年 1649年	母・殊法の孝養のため松坂に帰郷
延宝元年 1673年	52歳で江戸本町1丁目に三井越後屋呉服店を開く
天和3年 1683年	本町の店を駿河町へ移し、その西隣に両替店を新設
元禄7年 1694年	高利、73歳で没
宝永7年 1710年	長男・高平が事業統括機関・大元方を設置
享保7年 1722年	高平が三井家の家訓・宗竺遺書を制定
慶応2年 1866年	三井家が三野村利左衛門を雇用、幕府御用金を減免

明治	
明治4年 1871年	為換座三井組を設立
明治5年 1872年	日本初の銀行建築・海運橋三井組ハウス竣工 越後屋呉服店を三井家から分離
明治7年 1874年	駿河町為換パンク三井組ハウス竣工
明治9年 1876年	日本初の民間銀行・三井銀行設立 旧三井物産創立、初代社長に益田孝
明治21年 1888年	三井鉱山の民間払い下げを落札、團琢磨を招聘
明治22年 1889年	三池炭礦社設立
明治24年 1891年	中上川彦次郎が三井銀行入行
明治26年 1893年	三越呉服店を合名会社三井呉服店に改組 三井組を三井元方に改称 三井家同族会を設置 三井鉱山合資会社を三井鉱山合名会社に改称
明治35年 1902年	駿河町三井本館竣工
明治37年 1904年	三井呉服店を株式会社三越呉服店に改組、日本初の百貨店化を打ち出す
明治39年 1906年	三井家の寄付により財団法人三井慈善病院(現・社会福祉法人三井記念病院)設立
明治42年 1909年	三井財閥の持株会社・三井合名会社設立

大正	
大正2年 1913年	綱町三井別邸竣工
大正3年 1914年	三井合名が理事長制導入、初代理事長に團琢磨就任
大正7年 1918年	三井文庫創立
大正12年 1923年	関東大震災で駿河町三井本館が類焼
大正15年 1925年	駿河町三井本館を解体、三井本館着工

昭和47年 1972年	三広会が発展的解消、三井広報委員会発足
昭和50年 1975年	沖縄海洋博に三井こども科学館出展
昭和53年 1978年	三井業界問題研究所(現・三井業界研究所)設立
昭和60年 1985年	つくば万博に滝の劇場・三井館出展

昭和	
昭和3年 1928年	三越呉服店を株式会社三越に改称
昭和4年 1929年	三井本館竣工
昭和7年 1932年	三井合名理事長・團琢磨暗殺
昭和8年 1933年	三井合名初代社長・三井高棟引退、三井高公が家督を相続
昭和9年 1934年	財団法人三井報恩会設立
昭和15年 1940年	三井総元方設置 旧三井物産が三井合名を吸収合併
昭和16年 1941年	三井不動産設立
昭和18年 1943年	三井銀行と第一銀行が合併、帝國銀行発足
昭和19年 1944年	三井本社設立
昭和20年 1945年	GHQが財閥解体を指令
昭和21年 1946年	三井本社解散
昭和22年 1947年	旧三井物産、三菱商事に解散命令 過度経済力集中排除法施行、王子製紙、三井鉱山、大日本麦酒などに分割命令
昭和23年 1948年	帝国銀行が第一銀行を分離
昭和25年 1950年	三井グループの役員親睦会・月曜会発足
昭和29年 1954年	帝國銀行を三井銀行に改称
昭和31年 1956年	三井商号商標保全会設立 三井不動産、清算後の三井本社を吸収合併
昭和34年 1959年	三井物産大合同
昭和36年 1961年	三井グループの社長会・二木会、三広会発足
昭和40年 1965年	財団法人三井文庫設立
昭和45年 1970年	三井記念病院・BC棟竣工 大阪万博に三井グループ館出展

平成	
平成2年 1990年	三井銀行と太陽神戸銀行が合併、太陽神戸三井銀行発足 花の万博に「三井・東芝館」出展
平成4年 1992年	太陽神戸三井銀行がさくら銀行に行名変更
平成8年 1996年	江戸東京たてもの園に三井八郎右衛門邸移築
平成9年 1997年	三池炭礦閉山
平成10年 1998年	三井本館が重要文化財に指定
平成13年 2001年	さくら銀行と住友銀行が合併、三井住友銀行発足
平成17年 2005年	日本橋三井タワーが完成 三井本館7階に三井記念美術館開館 愛・地球博に「三井・東芝館」出展
平成20年 2008年	三越と伊勢丹が経営統合、三越伊勢丹ホールディングス発足 三井記念病院・入院棟竣工
平成22年 2010年	三井文庫が公益財団法人に認定
平成23年 2011年	三井記念病院の建替工事が全体竣工
平成25年 2013年	三井報恩会が一般財団法人に移行
平成28年 2016年	三越日本橋本店本館が重要文化財に指定

令和	
令和元年 2019年	日本橋室町三井タワー竣工
令和2年 2020年	三井不動産と三井物産の共同事業「Otemachi One」竣工

発行:三井広報委員会

三井広報委員会 事務局
〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-3 赤坂中川ビル3F
TEL 03-3505-6406
FAX 03-3505-6421
URL <https://www.mitsuirpr.com>

制作:日本ビジネスアート(株)
制作協力:(株)三友新聞社

2021年7月/1000

※ 法的には旧三井物産と現在の三井物産には継続性はなく、全く別個の企業体である。



三井広報委員会

<http://mitsuirpr.com>

三機工業
新日本空調
三井住友建設
サッポロホールディングス
東レ
王子ホールディングス
デンカ
三井化学
日本製鋼所
三井金属
東洋エンジニアリング
三井E&Sホールディングス
商船三井
三井物産
三越伊勢丹ホールディングス
三井住友海上
三井住友銀行
三井住友ファイナンス&リース
JA三井リース
大樹生命
三井住友トラスト・ホールディングス
三井不動産
三井倉庫ホールディングス
エームサービス



VOC(揮発性有機化合物)成分ゼロの環境に配慮した100%植物油インキを使用しました。



有機物質を含んだ廃液が少ない、水なし印刷方式で印刷しました。



この製品は、適切に管理されたFSC®認証林からの原材料および再生資源から作られています。